

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2001-502658(P2001-502658A)

【公表日】平成13年2月27日(2001.2.27)

【出願番号】特願平9-535761

【国際特許分類第7版】

C 0 7 K 1/04

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 39/00

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/02

C 0 7 K 14/00

G 0 1 N 33/531

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/68

【F I】

C 0 7 K 1/04 Z N A

A 6 1 K 39/00 G

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 31/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/02

C 0 7 K 14/00

G 0 1 N 33/531 A

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/68

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月2日(2004.4.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年4月2日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

特願平 9-535761号

2. 補正をする者

名称 ペプレサーチ・エー／エス

3. 代理人

東京都千代田区霞が関3丁目7番2号
鈴 榮 特 許 総 合 法 律 事 務 所 内
〒100-0013 電話03(3502)3181(大代表)
(5847) 弁理士 鈴 江 武 彦



4. 自発補正

5. 補正の対象

請求の範囲



6. 補正の内容

請求の範囲の欄の記載を別紙の通りに訂正いたします。

参考 (6)

請求の範囲

1. 合成の際にリンカーを介して固相に結合して、非樹状ペプチド担体—固相複合体を形成する非樹状ペプチド担体であって、該非樹状ペプチド—固相複合体および該ペプチド担体はそれぞれ、さらに該非樹状ペプチド担体に結合した生物学的に活性な物質を具備し、前記ペプチド担体は、前記固相から遊離した後に、好適な緩衝液中で二次構造を形成することができる非樹状ペプチド担体。

2. 請求項1に記載の非樹状ペプチド担体であって、前記生物学的に活性な物質が免疫原性物質、免疫仲介物質、治療因子、予防因子、診断因子、及び/又は検出因子である非樹状ペプチド担体。

3. 請求項2に記載の非樹状ペプチド担体であって、前記生物学的に活性な物質が、以下のペプチド：

—アミノ酸配列：GEIKNCSFNISTSIRGKVQKEYAFF を有する HIV-1 gp120 の aa152-176

—以下のアミノ酸配列：LERLLL を具備する HIV gp41 ペプチドから得られる

—アミノ酸配列：YDQLVTRVVTHEMAHA を有する

—アミノ酸配列：EAEEAARLQA を有する

—IFN- γ (1-39) : HGTVIESLESLNNYFNSSGIDVEEKSLFLDIWRNWQKDG

—IFN- γ (95-133) : AKFEVNNPQVQRQAFNELIRVVHQLLPESSLRKRKRSRC

—Tbp2 ペプチド AELGGQFHHKSENG

—PalA ペプチド TEADYAKNRAVLEY

—TNF 生物活性配列 (TNF70-80) : Pro-Ser-Thr-His-Val-Leu-Ile-Thr-His-Thr-Ile

—タフトシンペプチド TKPR、又はタフトシンペプチドが 6 未満繰り返されたオリゴマーを含むそのオリゴマー

—IL-1 β 生物活性配列 : VQGEESNDK

—EBA175-ペプチド : TLTKEYEDIVLKSHMNRESDD

—治療因子 KNGMLKGDKVS

—治療因子 CKNKEKKC

からなる群の一以上の要素を具備する非樹状ペプチド担体。

4. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、前記ペプチド担体が5~50アミノ酸を具備する非樹状ペプチド担体。

5. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、水溶液中で両親媒性 α ヘリックスを形成して、 α ヘリックスコイルドコイルタイプの平行ホモダイマーを生じる非樹状ペプチド担体。

6. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、共有結合した脂質部分をさらに具備する非樹状ペプチド担体。

7. 請求項6に記載の非樹状ペプチド担体であって、前記脂質部分が少なくとも一つのアルキル及び/又はアルケニル鎖であり、好ましくはペプチドのN-末端又はアミノ酸側鎖に共有結合した脂肪酸の形態である非樹状ペプチド担体。

8. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、誘導化可能且つアクセス可能な官能基である付着点を少なくとも2つ担持する非樹状ペプチド担体。

9. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、T細胞刺激性ペプチド及び/又はサイトカイン由来のペプチドを含む一以上のペプチド部分を具備する非樹状ペプチド担体。

10. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、少なくとも一つのDNAオリゴヌクレオチド部分を具備する非樹状ペプチド担体。

11. 請求項10に記載の非樹状ペプチド担体であって、DNA部分として、配列(5')PuPuCpGPyPy(3')を具備するオリゴヌクレオチドを具備する非樹状ペプチド担体。

12. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、DNA、PNA、インターラーカー、ポリカチオン性部分を含むDNA結合部分を具備する非樹状ペプチド担体。

13. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、UV吸収特性、可視吸収又は蛍光特性のような特徴的且つ測定可能なスペクトル又は放射能特性をさらに具備する非樹状ペプチド担体。

14. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、免

疫刺激複合体(Iscom)中に取り込まれて非樹状ペプチド担体ーIscom複合体を生じる非樹状ペプチド担体。

15. 先行する請求項の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体であって、フィブロネクチン様、ラミニン様、又はビトロネクチン様の結合活性を有する一以上のペプチドで誘導化された非樹状ペプチド担体。

16. プラスチック表面への細胞の付着を促進するための請求項15に記載の誘導化された非樹状ペプチド担体の使用であって、細胞を付着させる前に、誘導化された非樹状ペプチド担体でプラスチック表面をコートすることを具備してなる使用。

17. 腫瘍の増殖及び転移を阻止するための請求項15又は16に記載の誘導化された非樹状ペプチド担体の使用。

18. 傷害を受けた組織上にペプチドをコートすることによって、傷の治癒を促進させるための請求項15～17の何れか1項に記載の誘導化された非樹状ペプチド担体の使用。

19. 特異的に結合するアプタマーを選択するための請求項1～15の何れか1項に明記された非樹状ペプチド担体の使用。

20. その上に生物学的に活性な物質が結合された先行する請求項1～15の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体を調製するための方法であって、

- 1) リンカー上での化学的固相合成によって、非樹状ペプチド担体を合成すること、
 - 2) 生物学的に活性な物質を該非樹状ペプチド担体上で合成又は結合することと、
 - 3) 固相から非樹状ペプチド担体を切断すること
- というステップを具備する方法。

21. 請求項20に記載の方法であって、ステップ2)が、ペプチド担体上の誘導化可能な基によってペプチド担体に一以上の他の部分を共有結合させることをさらに具備する方法。

22. 分子及び/又は物質を検出するための診断成分であって、前記診断用化合物が、診断因子が結合した請求項1～15の何れか1項に明記されている非樹状ペプチド担体を具備する診断成分。

23. 請求項22に記載の診断成分であって、診断因子が抗原及び/又は抗体である診断成分。

24. アプタマーである分子を検出するための請求項22又は23に記載の診断成分。

25. 請求項22～24の何れか1項に記載の診断成分であって、該診断成分が、同一の分子又は異なる分子を検出することができる少なくとも二つの異なる診断因子を具備する診断成分。

26. 分子を検出するための請求項22～25の何れか1項に記載の診断成分の使用であって、診断組成物が対象と反応して複合体を形成するのに十分な時間、診断組成物を前記分子とともにインキュベート、前記複合体を検出手段にかけることによって、結合した分子の存在を検出する使用。

27. ヒトを含む哺乳類の疾病又は妊娠を診断する方法であって、請求項22～25の何れか1項に記載の診断成分を哺乳類に投与することと、診断因子が、前記哺乳動物の疾患若しくは妊娠によって生じる分子又はこれらの指標となる分子をインビボで検出する診断因子である方法。

28. ヒトを含む哺乳類の疾病又は妊娠を診断する方法であって、前記哺乳動物から得たサンプル中で請求項22～25の何れか1項に記載の診断成分をインキュベートすることを具備し、診断因子が、前記哺乳動物の疾患若しくは妊娠によって生じる分子又はこれらの指標となる分子であり、サンプル中に存在する分子を検出する診断成分である方法。

29. 感染性疾患、自己免疫疾患、癌性疾患、又は他の任意の関連する疾患によって生じる分子又はこれらの指標となる分子を検出するための請求項27又は28の何れかに記載の方法。

30. 請求項22～25の何れか1項に記載の診断成分を具備する診断キット。

31. 少なくとも一つの免疫原性因子及び/又は免疫仲介物質が付着している請求項1～15の何れか1項に明記されている非樹状ペプチド担体を具備するワクチン。

32. 請求項31に記載のワクチンであって、免疫仲介物質が、タフトシン、サイトカイン、接着分子、又はそれらの一部若しくは修飾であるワクチン。

3 3. 請求項 3 1 又は 3 2 に記載のワクチンであって、第二の担体に付着した免疫仲介物質又は仲介物質活性を有するその一部と必要に応じて組み合わされ、ワクチン成分が免疫刺激複合体(Iscom)、リポソーム又は免疫微粒子のような第二の担体に付着しているワクチン。

3 4. ヒトを含む哺乳動物を疾病に対して免疫する方法であって、免疫原として有効な量の請求項 3 1 ~ 3 3 に記載のワクチンを哺乳類に投与することを具備してなる方法。

3 5. 請求項 1 ~ 1 5 の何れか 1 項に明記されている非樹状ペプチド担体を具備する薬学的組成物であって、少なくとも一つの治療因子又は予防因子が付着している薬学的組成物。

3 6. 請求項 3 5 に記載の薬学的組成物であって、担体に結合された治療因子又は予防因子の効果を制御又は増強し得る仲介物質を少なくとも一つさらに具備する薬学的組成物。

3 7. 請求項 3 6 に記載の薬学的組成物であって、免疫仲介物質がタフトシン、サイトカインを含む免疫調整物質、接着分子、又はこれら的一部若しくは修飾である薬学的組成物。

3 8. 請求項 3 5 ~ 3 7 の何れか 1 項に記載の薬学的組成物であって、第二の担体に付着した仲介物質又は仲介物質活性を有するその一部と必要に応じて組み合わされ、治療用成分が免疫刺激複合体(Iscom)、リポソーム又は微粒子のような第二の担体に付着している薬学的組成物。

3 9. 哺乳動物の特異的な部位に存在する標的物質に結合することができる標的分子をさらに具備することによって、治療用成分が効果を発現すべき前記特異的部位に該治療用成分を誘導する請求項 3 5 ~ 3 8 の何れか 1 項に記載の薬学的組成物。

4 0. 請求項 3 9 に記載の薬学的組成物であって、標的分子が抗体である薬学的組成物。

4 1. 感染性疾患、癌性疾患、又は自己免疫疾患、又は他の任意の関連する疾病のような疾患を治療又は予防するための請求項 3 5 ~ 4 0 の何れか 1 項に記載の薬学的組成物。

42. 薬学的組成物を調製するための請求項1～15の何れか1項に記載の非樹状ペプチド担体の使用。

43. 疾患を治療及び/又は予防する方法であって、これを必要とする患者に、治療的又は予防的に有効な量の請求項35～41の何れか1項に記載の薬学的組成物を投与することを具備する方法。

44. 分子又は物質を検出するための検出用成分であって、該成分が結合している請求項1～15の何れか1項に明記された非樹状ペプチド担体を具備する検出用成分。